本商品はサクサエコマークの製品です。

サクサ株式会社

●お問い合わせ、ご用命は

ご購入年月日	年　　月　　日
ご 購 入 店 名	

この資料の内容は、平成20年9月現在のものです。

リチウムイオン電池の
リサイクルに
ご協力ください

PRINTED WITH SOY INK™

環境を考えて
大豆インクを
使用しています

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準にもとづくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

767BT	063-3	K

この資料は、再生紙を使用しています。

4282060100

取扱説明書

セーフティ機能編

このたびは、「BSS専用CF/取説セット」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり正しくお使いください。

ご注意

① 本製品を分解したり改造することは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
② 本製品の故障や誤動作、停電あるいは、天災などにより、本製品が使えなかったことによる付随的損害保証については当社では、一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
③ 本製品を設置するための配線工事および修理は、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は違法となり、また事故のもとになりますので、絶対におやめください。
④ 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、販売店にお申しつけください。
⑤ 本書に記載されている内容については、将来予告なしに変更することがあります。
⑥ 本書に記載されている内容の一部または全部を無断記載・無断複写することは固くお断りいたします。

目　　次

① はじめに

② セーフティ機能編

③ いらっしゃいませンサ機能編

お問い合わせ窓口のご案内

このたびは当社の商品をお求めいただき、まことにありがとうございます。
商品についてのお問い合わせ、ご相談、アフターサービス（修理）などにつきましては、お求めになられました販売店または下記の当社窓口にご相談ください。

《サクサグループ》

■お客様窓口（商品についてのお問い合わせ、ご相談）

サクサ株式会社

●ホームページアドレス：http://www.saxa.co.jp

●お客様相談室： 0570－001－393（ナビダイヤル ゼロゼロワン サクサ）

050－5507－8039

■サービス窓口（アフターサービス、修理）

サクサ アドバンストサポート 株式会社

●ホームページアドレス：http://www.saxa-as.co.jp

●総　合　窓　口：0570－000－393（ナビダイヤル ゼロゼロゼロ サクサ）

北海道サービスセンタ	☎ 011－281－1046
東北サービスセンタ	☎ 022－291－2320
首都圏サービスセンタ	☎ 03－5420－0393
中部サービスセンタ	☎ 052－561－0097
関西サービスセンタ	☎ 06－6360－6191
中四国サービスセンタ	☎ 082－228－5210
九州サービスセンタ	☎ 092－713－8243

上記電話番号などは都合により、変更になる場合がございます。その際にはお買い求め頂いた販売店にご相談いただくか、または、当社ホームページ（http://www.saxa.co.jp）より最新情報を入手してください。
PHS・IP電話等、ナビダイヤル（0570で始まる番号）がご利用できない場合は、050－5507－8039にお問い合わせください。

安全にお使いいただくために

必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の説明

表示	説明
⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(※1)を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(※1)を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害(※2)を負う可能性が想定される内容および物的損害(※3)のみの発生が想定される内容を示しています。

※1：重傷とは失明や、けが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
※2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
※3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

図記号	説明
禁止	禁止(してはいけないこと)を示します。
強制	強制(必ずすること)を示します。

免責事項

- 地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本装置の使用または使用不能から生じる付随的な損害(記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断、通信機会の喪失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 電話サービスを利用することによる金銭上の損害、および逸失利益について第三者からのいかなる請求についても当社はその責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品のセーフティ機能は、センサで異常を検知し、電話機からの音と光による威嚇や通報先へ通報する装置であり、いわゆる災害を防止する装置ではありません。万一、事故・災害などが発生した場合でも、当社では一切の責任を負いません。

安全にお使いいただくために

⚠危険

強制

電池パックはプラス㊉・マイナス㊀の向きが決められています。電話機に接続するときは、プラス㊉・マイナス㊀の向きを確かめてください

電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。

禁止

電池パックを単体では充電しないでください

電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。

禁止

電池パックは、指定の電話機以外には使用しないでください

電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。

禁止

電池パックを分解・改造しないでください

電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。

強制

電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください

電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。

- 火の中に投入したり、加熱しない
- 直接はんだ付けしない
- プラス㊉・マイナス㊀を針金などの金属類で接触させない
- 水・雨水・海水・薬品などにつけたり、ぬらさない
- ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない
- 針を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたり、投げつけない

強制

電池パック内部の液が眼に入ったときは、失明のおそれがあります。こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください

⚠警告

禁止

取付位置を変更しないでください

火災・感電・けがの原因となります。
配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

主装置の通風孔や電話機の開口部などから、金属類を入れないでください

火災・感電・故障の原因となります。万一、金属類が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

ぬれ手禁止

主装置をぬれた手で操作したり、ぬれた布でふかないでください

感電の原因となります。

電源プラグを抜く

万一、内部に水などが入った場合、そのまま使用しないでください

すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

電源プラグを抜く

主装置、電話機の上や近くに液体の入った容器(花びん・植木鉢・コップ・化粧品・薬品など)を置かないでください

液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電・故障の原因となります。万一、液体が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら、主装置・電源コードなどに触れないでください

感電の原因となります。

電源プラグを抜く

万一、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなどの異常状態が発生した場合、そのまま使用しないでください

すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。なお、お客様による修理は危険ですからおやめください。

安全にお使いいただくために

⚠警告

禁止

一般のゴミとして放置しないでください

火災・けがの原因となります。
廃棄するときは、販売店にご相談ください。

強制

AC100Vの商用電源以外は、絶対に使用しないでください

火災・感電・故障の原因となります。

禁止

内線・外線の各端子をショートさせないでください

火災・故障の原因となります。

禁止

テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用したタコ足配線はしないでください

火災・過熱の原因となります。

電源プラグを抜く

主装置、電話機を傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないでください

落下・転倒により、けがの原因となります。万一、落下・転倒により破損したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください

感電・けがの原因となります。

火気禁止

主装置、電話機に火の気を近づけたり、加熱しないでください

鉛蓄電池(バッテリー)が液もれ・発熱・破裂し、火災・けがの原因となります。

禁止

電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工しないでください

電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだ場合は(芯線の露出、断線など)主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店に交換をご依頼ください。

禁止

工事・保守者以外は、装置の蓋などを開けないでください

感電、故障の原因となります。

強制

電源プラグは電源コンセントの奥までしっかり差し込んでください

電源プラグの刃に、金属などが触れると火災・感電の原因となります。

強制

電源プラグの刃および刃の取付面に、ほこりが付着している場合は、よくふいてください

火災の原因となります。

電源プラグを抜く

主装置に鉛蓄電池(バッテリー)を使用する場合、寿命は(使用頻度にもよりますが)設置後2〜3年です。2〜3年ごとに販売店にまとめて交換をご依頼ください

寿命が過ぎた鉛蓄電池(バッテリー)を使用し続けるとバッテリー内部の液もれの原因となります。万一、バッテリー内部からもれた液が皮膚や衣装についたときは、すぐきれいな水で洗い流してください。皮膚がかぶれることがあります。また、バッテリー内部の液もれが発生したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

分解禁止

分解・改造・修理しないでください

火災・感電・故障の原因となります。
電話機の改造は法令違反になります。故障のときは、販売店に修理をご依頼ください。

禁止

歩行中に電話機を操作したり見たりしないでください

転倒・交通事故などの原因となります。

禁止

電話機を電子レンジや高圧容器に入れたりしないでください

火災・故障の原因となります。

禁止

引火性ガスが発生する場所では、電話機を絶対に充電しないでください

火災の原因となります。

電源プラグを抜く

万一、充電器が落下したり、破損した場合は、そのまま使用しないでください

必ず電源アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

安全にお使いいただくために

⚠警告

高精度な制御や、微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しないでください

電子機器が誤動作するなど影響が出る可能性があります。また、使用を制限された場所での使用はお控えください。
（ご注意いただきたい電子機器の例：補聴器・医療用電子機器・ペースメーカ・火災報知機・自動ドア・自動制御機器など）

充電器の開口部から金属類を入れないでください

万一、内部に異物が入った場合は、すぐに電源アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池パックが液もれしたり、異臭がするときは、すぐに火気から遠ざけてください

所定の充電時間を越えても充電が完了しない場合には、すぐに充電をやめて、お買い求めの販売店にご連絡ください

ぬれた手で電池パックを交換したり、ぬれた手で充電器の電源アダプタを抜き差ししないでください

感電の原因となります。

専用の充電器を使用してください

火災・感電の原因となります。

電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください

⚠注意

主装置や電話機を壁掛けに変更するときは、販売店にご相談ください

配線工事を行うには資格が必要です。また主装置の重みに耐える適正な取り付けが必要です。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください

電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

主装置、電話機の上に乗ったり、座ったりしないでください

けがや故障の原因となることがあります。

直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないでください

内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください

火災・感電・故障の原因となることがあります。

調理台のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、ほこりが多い場所に置かないでください

火災・感電・故障の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かないでください

火災・感電・故障の原因となることがあります。

主装置や電話機の開口部をふさがないでください

開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となることがあります。

（☞「VoIPユニットの自動ファームアップ」）で、最新ファームウェア書き換えのときは絶対に電源を落とさないでください

故障の原因となります。

電話機のアンテナを持って持ち運んだり、アンテナを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください

故障の原因となります。

安全にお使いいただくために

⚠注意

電気雑音を発生するものに近い場所に置かないでください

通話に雑音が入ったり、使用できなくなることがあります。

<電気雑音の原因としては>

- 車やオートバイが近くを通る場合
- 放送局や無線局(アマチュア無線、CB無線など)の近くで使用する場合
- テレビ・ラジオ・蛍光灯・OA機器・電子レンジ・電気コタツなどの近くで使用する場合
- 高周波溶接機・高周波ミシン・電気溶接機・ワイヤカッタなどの工作機械の近くで使用する場合

火のそばや炎天下などの高温の場所で、充電はしないでください

高温になると危険を防止する保護装置が働き、充電できなくなったり、保護装置が壊れる原因となります。

電池パックは、事故防止のため、小さいお子様の手の届かないところに保管してください

長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず充電器の電源アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください

充電器の電源コードを熱器具に近づけないでください

電源コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となることがあります。

電源アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず電源アダプタまたは電源プラグを持って抜いてください

電源コードを引っ張ると、電源コードが傷つき、火災・感電・断線の原因となることがあります。

充電器をお手入れする際は、安全のため、あらかじめ電源アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください

感電の原因となることがあります。

充電器の上に指輪、ネックレスなどの金属類を置かないでください

金属が熱くなり、火災・やけどなどの原因となることがあります。

充電は周囲温度5℃～35℃の範囲で行ってください

正常な充電ができなかったり、故障の原因となります。

●取扱上のお願い／主装置、電話機、他

海外では使用できません

本製品は、日本国内の基準に適合するように設計されています。

別売品の停電用電源を接続している場合は、電源スイッチが「入」のままで、電源プラグを抜いたり、配電盤などの電源を切らないでください

バッテリーが放電してしまい、停電時に動作しなくなります。また、バッテリーの寿命を縮める原因となります。

コードレス電話機は、防水対応ではありません

寒い戸外から急に暖かい室内にコードレス電話機を持ち込むと、急激な温度変化により、コードレス電話機内部に水滴(結露)がつくことがあります。結露が生じたときは電源を切って、水滴が蒸発するまでしばらく放置しておいてください

結露したままで使用すると、故障の原因となります。

コードレス電話機の通話は盗聴されにくくなっていますが、電波を利用しているため、通常の手段を超えた方法で第三者が故意に通話の内容を傍受する場合があります。この点を十分に留意して使用してください

●本商品は、電話に代表される、個人情報の保存または保持可能な商品です。設置工事、保守、廃棄、譲渡および返却される際は、本商品内に保存または保持された個人情報を消去する必要があります。

取扱説明書の見かた

この取扱説明書は次のフォーマットをベースに記載してあります。

②セーフティ機能編

発信者番号通知を利用してリモコン操作をする（ダイレクトリモコン）

工事設定により、発信者番号通知を利用して、通報先番号に登録されている番号と通知された番号が一致すると、リモコン操作ができます。

1 通報先から電話機をかける

- プッシュ信号送出と発信者番号通知ができる外出先の電話機から、工事設定した本システムのアナログ回線またはデジタル回線へ電話をかけます。

2 自動応答する

- 受付メッセージ「リモコンを開始します。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。

3 操作するリモコン番号を押す

- メッセージ（☞28ページ）が聞こえます。
- 操作したいリモコン番号は「リモコン操作一覧」をご覧ください。（☞28ページ）
- リモコン番号以外を押した場合には、エラーメッセージ「番号が違います。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。再度正しいリモコン番号を入力してください。

4 [*][0]（終了）を押す

- 終了メッセージ「終了します。」が聞こえ、リモコン操作が完了します。

MEMO

- 通報先にサブアドレスが入力されている場合、ダイレクトリモコンが利用できません。
- 通報先に登録された電話番号からだけ利用できます。
- 暗証番号の登録は必要ありません。
- セーフティの通報先電話番号から発信者番号を通知して、工事設定した本システムのアナログ回線またはデジタル回線へ電話をかけると、セーフティモードのセット状態または解除状態にかかわらずリモコン状態に入ります。
- セーフティの通報先電話から、工事設定した本システムのアナログ回線またはデジタル回線へリモコン以外の用事で電話をかけるときは、電話番号の前に「１８４」をダイヤルします。（発信者番号を通知不可にして電話をかけます）
- 受付メッセージ「リモコンを開始します。リモコン番号を入力してください。」が聞こえてから約２０秒以内にリモコン番号を押さないと、自動的に電話が切れます。
- 携帯電話からリモコン操作する場合は、携帯電話の設定を「発信者番号通知あり」にしてください。

26

略図の説明

多機能電話機（TD615、TD625電話機など）

受話器を置いている状態を基本とします。

略　図	操作説明
ア1 カABC2 サDEF3 タGHI4 ナJKL5 ハMNO6 マPQRS7 ヤTUV8 ラWXYZ9 ワ0 ＊ #	ダイヤルボタンを押す
	受話器を上げる
	受話器を置く

略　図	操作説明
保留 発信 短縮 機能 フラッシュ スピーカ	各機能名称のボタンを押す
	確定ボタンを押す
	ＭＦキーの上下左右を押す

●多機能電話機の「略図」をCL620子機、WS600電話機の「略図」の代わりに使用している場合があります。

CL620電話機

CL620子機をCL620親機に置いている状態を基本とします。

CL620親機

●CL620親機の略図は、実際と異なります。
●この取扱説明書では、CL620親機の略図は多機能電話機を使用しています。

CL620子機

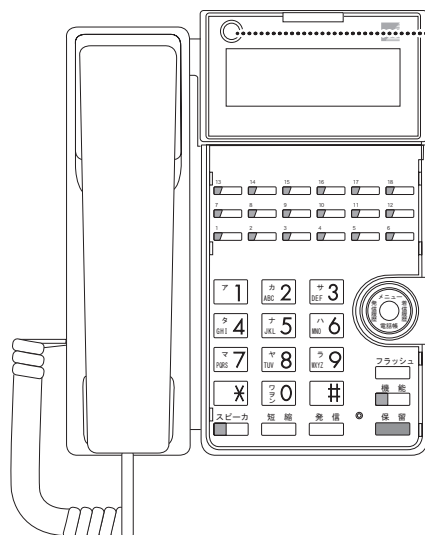
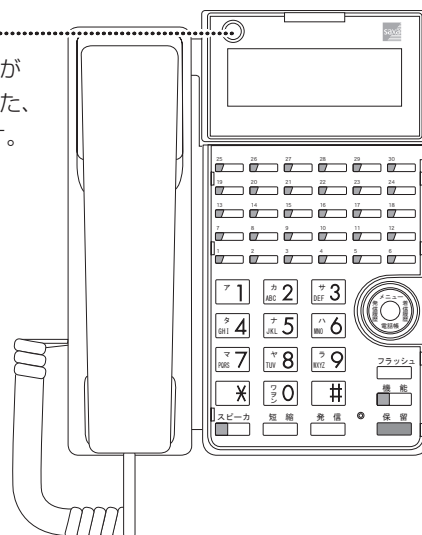
略　図	操作説明
ア1 カABC2 サDEF3 タGHI4 ナJKL5 ハMNO6 マPQRS7 ヤTUV8 ラWXYZ9 ワ0 ＊ #	ダイヤルボタンを押す
	CL620子機を上げる
	CL620子機を置く

略　図	操作説明
フラッシュ 短縮 切 通話 スピーカ 保留	各機能名称のボタンを押す
確定	確定ボタンを押す
	ＭＦキーの上下左右を押す

WS600電話機

WS600子機は、CL620子機の略図と同様です。WS600子機のダイヤル面を上にして充電器に置いている状態を基本とします。

電話機の種類と各部の名称

TD615電話機　　TD625電話機

人感センサ以外の「各部の名称」は、本システムの取扱説明書をご覧ください。

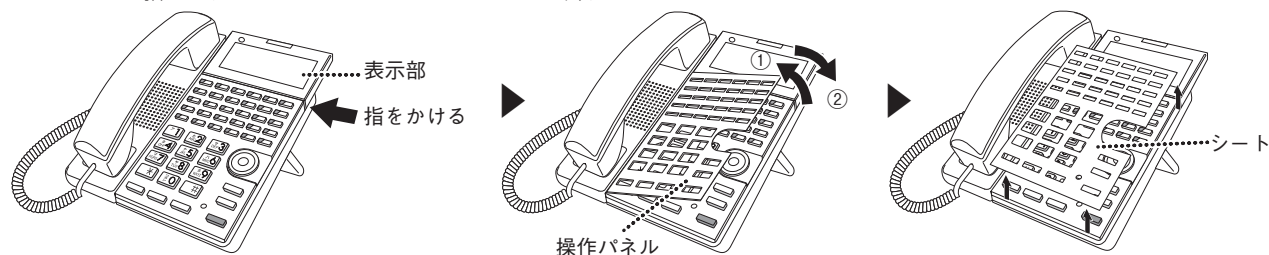
シートの交換のしかた

電話機のボディカラーの好みに合わせて別シートと交換できます。別シートは、添付品です。（2種類）
シートの交換の際は、ラインコードを抜いてから作業を行ってください。

操作パネル

1 表示部の角度は現状のままにして、操作パネルのツメに指をかける

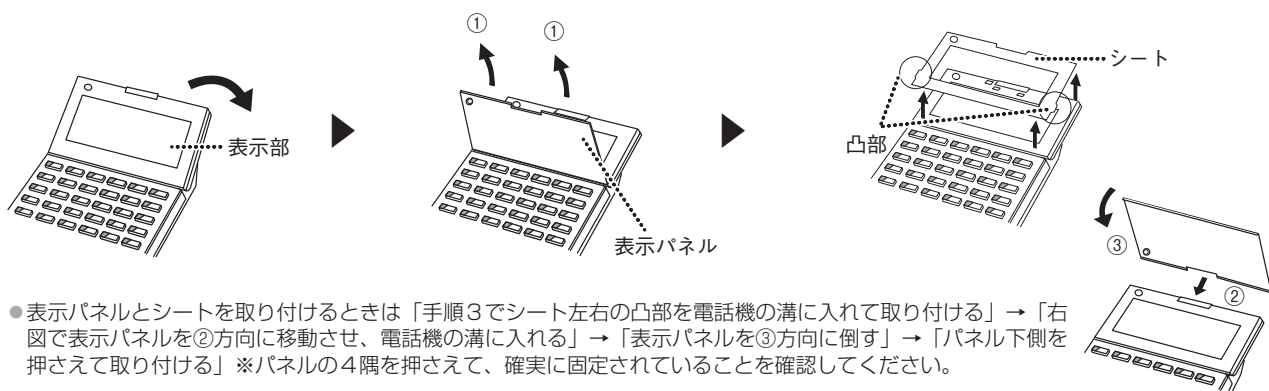
2 操作パネルを①方向に持ち上げて取り外す

3 シートを取り外す

● 操作パネルとシートを取り付けるときは「手順3でシートをかぶせる」→「手順2で操作パネルを②方向に倒す」→「カチッ音がするまで押さえる」

表示パネル

1 表示部を倒す

2 表示パネルを①方向（1ヵ所でも良い）に持ち上げて取り外す

3 シートを取り外す

● 表示パネルとシートを取り付けるときは「手順3でシート左右の凸部を電話機の溝に入れて取り付ける」→「右図で表示パネルを②方向に移動させ、電話機の溝に入れる」→「表示パネルを③方向に倒す」→「パネル下側を押さえて取り付ける」※パネルの4隅を押さえて、確実に固定されていることを確認してください。

※SS510、SS520、SS610、SS620電話機は、TD615、TD625電話機と通常の使い方は同じです。
※この取扱説明書のTD615、TD625電話機をSS510、SS520、SS610、SS620電話機に読み替えてご利用ください。

ご使用前の注意事項

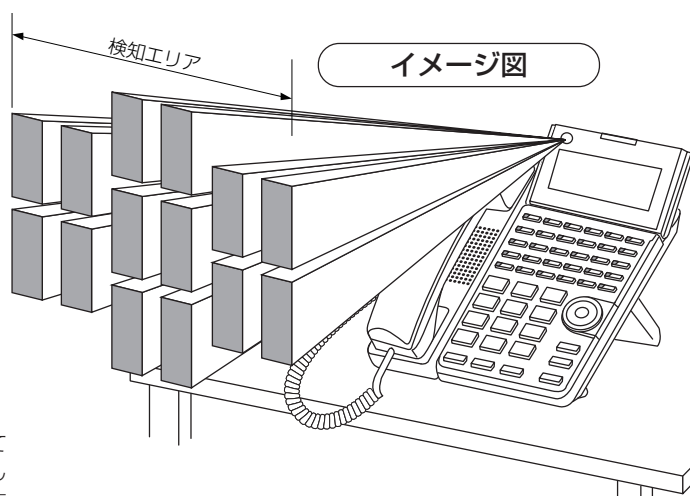
TD615、TD625電話機

1. 人感センサについて

●センサ種類

人感センサは、自然界のものから放射されている赤外線をとらえ、その温度変化を検出する焦電型赤外線センサです。

●センサ検知能力

項 目	能力値
有効検知距離	強：4m以下 弱：2m以下
検知範囲	縦：最大60° 横：最大53°
検知方式	焦電型
検知エリア数	14本
検知動作速度	1m／s
検知温度差	4℃以上

●センサ検知範囲

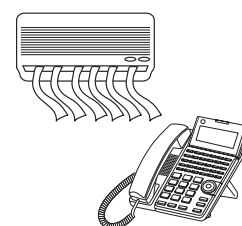
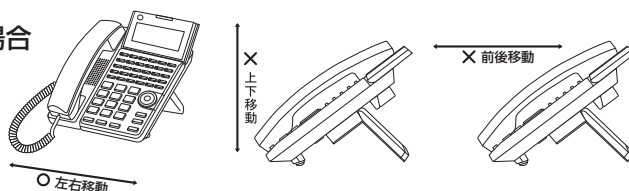
センサ検知範囲は、レンズ表面を起点として、パネル面に対して垂直に放射状に広がります。そのため、表示面が侵入者検知をしたいエリアの方向を向くように設置する必要があります。表示面が天井や床を向いていたりすると侵入者を検知することができません。卓上で使用する場合はスタンドと表示面を立て、壁掛けの場合は表示面に水平方向を向かせることをお奨めします。また、検知範囲内でも検知できない場合がありますので注意してください。

2. センサ検知の注意事項

●人体以外の熱源などを検知する場合

使用環境によっては、人体以外の物体などを検知により誤報となる場合があります。十分にご注意ください。

①犬、猫や小動物が検知範囲に入った場合
②太陽光、自動車のヘッドライト、白熱灯などの赤外線が人感センサに直射する場合
③冷暖房機器の温風、冷風や加湿器の水蒸気などにより、検知範囲の温度が急激に変化した場合
④検知範囲内にあるFAX、コピー機が動作した場合
⑤強い振動がある場所
⑥強い電磁波がある場所

●熱源を検知しにくい場合

①人感センサ正面に対して左右の横切りを検知するような仕組みのため、上下の横切りや正面からの前後移動については検知できないことがあります。
②周囲環境温度と人体表面温度の差が小さい場合（4℃未満）
③ガラスやアクリルなど赤外線を透過しにくい物体が、人感センサと目標との間にある場合
④検知範囲内の熱源がほとんど動かない場合
⑤検知範囲内の熱源が高速で移動する場合

●検知エリアが大きくなる場合

周囲環境温度と人体表面温度の差が大きい場合（約20℃）、指定した検知範囲以外でも検知するエリアが存在することがあります。

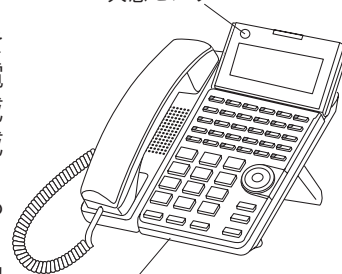
3. 人感センサのお手入れ

人感センサのレンズの傷や汚れは光学特性を劣化させ、感度が落ちることがありますので、いつもきれいに保つようにしてください。レンズ上に溜まったホコリや汚れは、傷をつけないようにやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。（ベンジン、シンナーなどの有機溶剤やアルコールは使用しないでください）

セーフティ機能の概要

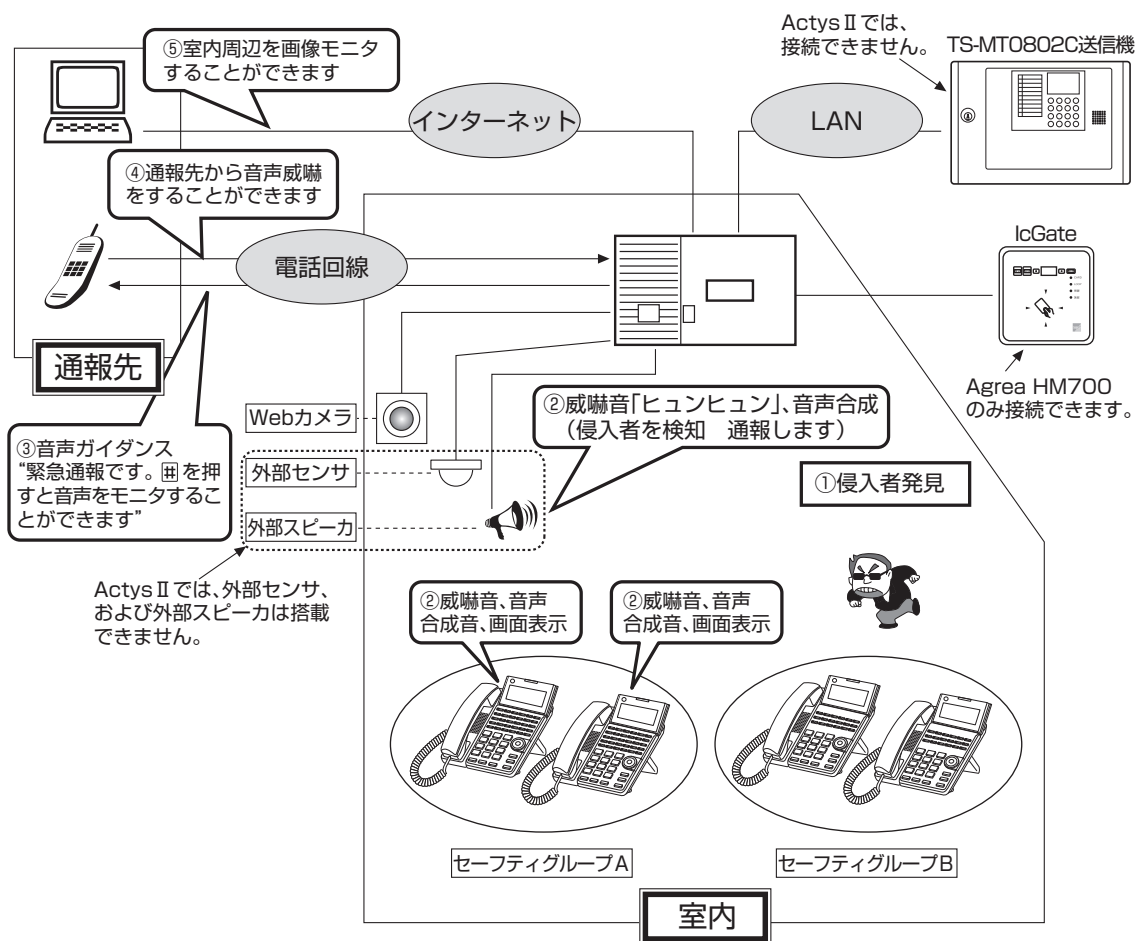
本システムは、人感センサ付き多機能電話機「TD615、TD625電話機」に搭載されている「人感センサ」（※1）を使用して、セーフティ機能をご利用することができます。セーフティモード中にTD615、TD625電話機の人感センサが異常を検知すると、あらかじめ指定された電話機（威嚇電話機）、または外部スピーカから威嚇音や音声合成音での音による威嚇と、威嚇電話機のランプによる威嚇を行うことができます。
さらに、事前に登録した通報先へ異常を知らせて、室内の音声モニタや通報先からの音声による威嚇を行うことができます。
また、Webカメラを設置して連携することにより、通報先から室内周辺の画像モニタ（※2）や画像の録画（※2）をすることも可能です。

人感センサ
（例）TD625電話機

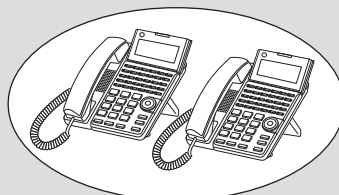
※1：外部センサや、TS-MT0802C送信機を接続することも可能です。（Agrea HM700/RegalisⅡ）
※2：お使いになるWebカメラの機能やネットワークの環境によります。

- 本システムのセーフティモードセット／解除を行うと、TS-MT0802C送信機も連動します。また、TS-MT0802C送信機が異常を検知すると、本システムから威嚇や通報先へ知らせることができます。（Agrea HM700/RegalisⅡ）
- IcGateから警備モード開始／解除を行うと、本システムのセーフティモードセット／解除が連動します。また、IcGateの発報出力を接続し、IcGateが異常を検知すると本システムから威嚇や通報先へ知らせることができます。

MEMO

本製品のセーフティ機能は、センサで異常を検知し、電話機からの音と光による威嚇や通報先へ通報する装置であり、いわゆる災害を防止する装置ではありません。
万一、事故・災害などが発生した場合でも当社では、一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

セーフティモード中での早わかり

セーフティ機能について

1. セーフティグループの概念

※ActysⅡの場合はセーフティグループAのみとなります。

セーフティグループA

セーフティグループB

警戒するエリア・威嚇、通報先を自宅・会社などのセーフティグループとして最大2グループ（A、B）まで分けることが可能です。なお、同一電話機をグループAとBに重複登録することはできません。

● セーフティグループは工事設定により、セーフティモード中および威嚇動作中でも使用できる警報鳴動グループとなります。

● **セーフティ関連の設定には、次の5種類があります。**
①セーフティモード解除用暗証番号……セーフティグループごとに1組
②通報ガイダンス…………………………セーフティグループごとに4種類から1つ選択
③通報先電話番号…………………………セーフティグループごとに最大5ヵ所
④セーフティリモコン用暗証番号………セーフティグループごとに1組
⑤威嚇音……………………………………セーフティグループA、B共通で4種類から1つ選択

2. セーフティモードの概念

● **セーフティモードには、次の5種類があります。**

セーフティモードの種類	内　　容	警　戒ランプ	備　　考
セーフティモードセット遅延タイマ中	セーフティモードにセット操作してから、セーフティモードになるまでの状態です。(表示部に「XXX秒後にセーフティモードが設定されます」を表示します。工事設定により、1秒〜600秒まで設定できます)(お買い上げ時は60秒です)	点滅	同一セーフティグループ内の電話機は、使用できなくなります。(警報鳴動グループは使用できます)本モード中は、誤検知を防止するためにセンサ検知は行っていません。
セーフティモード中	TD615、TD625、外部センサ※1、TS-MT0802C送信機※1、IcGate※1からのセンサ検知可能な状態です。	点灯	同一セーフティグループ内の電話機は、使用できません。(警報鳴動グループは使用できます) ただし、留守番応答、外線自動転送などは動作します。
威嚇遅延タイマ中	センサが異常を検知してから威嚇を開始するまでの状態です。工事設定により、1秒〜600秒まで設定できます。(お買い上げ時は60秒です)	点滅	センサ検知された後に、セーフティモードを解除する場合は、威嚇遅延タイマ中に解除してください。
威嚇中(通報中)	セーフティグループ内の電話機が、音声合成音やランプなど音と光で、威嚇を開始します。さらに通報先を呼び出し、センサ異常を通報先へお知らせします。Webカメラと連動させれば、Webカメラポジションをセンサ方向へ移動させ、Webカメラの機能によっては画像をメールで通知することもできます。	点灯	威嚇する時間は、工事設定により1分〜60分に設定できます。(お買い上げ時は20分です)
音声威嚇中	通報先が応答して[#]（プッシュ信号）を押すことで、室内の様子をモニタしたり、通報先からの音声による音声威嚇を行うことができます。	点灯	通報先からの音声威嚇中は、電話機・外部スピーカなどからの音声合成による音の威嚇は、中断されています。

※1　Agrea HM700/RegalisⅡのみ接続可能です。

つづく➡

3. セーフティモードセット／解除

セーフティ機能を利用する場合には、あらかじめオートダイヤルボタンに特殊番号を登録する必要があります。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機で登録することができます。

特殊番号	ボタンの名称	内容
60	警戒A	セーフティモードAのセット／解除
61	警戒B	セーフティモードBのセット／解除

- CL620子機、WS600電話機の画面表示は、多機能電話機と異なります。

- **セーフティモードセット**
  通常モードで［警戒A］（または［警戒B］）を押して、表示内容を確認してから◉を押すと、モードセット遅延タイマ終了後にセーフティモードが動作します。（モードセット遅延タイマは工事設定によります）次の条件下ではセーフティモードをセットすることはできません。

  ＜セーフティモードに設定できない条件＞
  ①セーフティグループ内で既にセーフティモードが設定されている場合
  ②セーフティグループ内の電話機が使用中の場合
  ③セーフティグループ内の外線が使用中の場合
  ④外部センサが作動している場合（外部センサの解除方法は、外部センサの操作手順に従ってください）

- **セーフティモード解除**
  セーフティモード中に［警戒A］（または［警戒B］）を押すと「セーフティモード解除用暗証番号」の入力待ちとなります。正しい暗証番号4桁を入力すると、セーフティモードが解除され、警戒ランプが消灯します。

- Agrea HM700/RegalisⅡの場合、セーフティモードセット／解除を行うと、TS-MT0802C送信機も連動します。
- Agrea HM700の場合、IcGateから警備モード開始／解除を行うと、セーフティーモードセット／解除が連動します。ただし、本システムからセーフティモードセット／解除を行ってもIcGateの警備モードは連動しません。

4. セーフティモード中の制限事項について

- **セーフティモードセット**
  セーフティモード中のシステム動作について、制限事項がありますので注意してください。本制限事項は、対象セーフティグループ内の電話機のみに適用されます。ただし、警報鳴動グループ内の電話機は威嚇状態になりますが、本制限事項は適用されません。セーフティグループ外の電話機に関しては、通常どおり動作します。

  ＜セーフティモード中の制限事項＞
  ①セーフティグループ内の電話機は、セーフティモード解除以外の操作（例：メニュー機能など）を行うことはできません。
  ②外線着信に関して、通常に着信状態となりますが、応答することはできません。威嚇中は威嚇状態を優先します。
  ③外線個別着信については、着信しません。
  ④ドアホン着信に関して、通常に着信状態となりますが、応答することはできません。威嚇中は威嚇状態を優先します。
  ⑤内線発信／着信動作は行うことができません。
  ⑥留守番電話機能に関して、次の機能が動作できません。
  ・お待たせ応答
  ・留守番応答中の電話機応答
  ・留守番指定電話機の切り替え
  ・通話メモ

つづく➡

5. センサ検知および威嚇

セーフティモード中に人感センサなどが異常を検知すると、威嚇遅延タイマ後、セーフティグループ内の電話機が威嚇状態となります。（セーフティグループの電話機指定、威嚇遅延タイマは工事設定によります）
威嚇中に威嚇警報音鳴動タイマが満了すると、威嚇警報音を停止します。ただし、威嚇状態は継続します。（威嚇警報音鳴動タイマは工事設定によります）
工事設定により、威嚇動作による、電話機ランプを初期から点滅させない設定にすることができます。
※但し、威嚇中に外線着信などがあると着信表示ランプは点滅します。

● 威嚇中に、セーフティモードを解除した場合には、威嚇状態をキャンセルします。

● **威嚇電話機（多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機）**
セーフティグループ内の威嚇電話機は、セーフティモード中に、人感センサが異常を検知すると、音声合成音やランプなどによって威嚇を行うことができます。
→ランプ　：警戒ランプ（赤点灯）、警戒ランプ以外の外線ランプ（赤点滅）、着信ランプ（7色点滅）
→威嚇音　：4種類から1つ鳴動（音量は工事設定によります）
→画面表示：異常を検知した日時、最初に異常を検知した電話機の内線番号
・多機能電話機、CL620親機は威嚇中、バックライトが点灯します。
・CL620子機、WS600電話機は威嚇開始から10秒間だけ、バックライトが点灯します。
・単独電話機は威嚇電話機に指定できません。

● **音声威嚇電話機（多機能電話機、CL620親機）**
セーフティグループ内の音声威嚇は、あらかじめ指定された電話機１台だけ通報先からの操作によって、室内の音声モニタや通報先からの音声で、威嚇を行うことができます。
→ランプ　：警戒ランプ（赤点灯）、警戒ランプ以外の外線ランプ（赤点滅）、着信ランプ（7色点滅）
→威嚇音　：鳴動なし
→画面表示：異常を検知した日時や、最初に異常を検知した電話機の内線番号

● **外部スピーカ**
→威嚇音　：4種類から1つ鳴動

6. 通報

威嚇動作に入ると、通報動作が始まります。通報先はセーフティグループごとに最大5ヵ所まで設定することができます。通報先が応答した場合には、セーフティグループごとに設定されている通報ガイダンスが流れます。通報先が[#]（プッシュ信号）ボタンを押すと通報ガイダンスを停止し、待機状態の電話機がハンズフリー通話状態になることで、室内の音声モニタができて室内の様子を確認することができます。また、通報先から音声による威嚇を行うことができます。
通報先が通話を終了すると再威嚇状態となります。（威嚇警報鳴動タイマが終了するまで鳴動します。通報先のリモコン操作により威嚇音を停止することもできます）
・通報先が応答後に[#]（プッシュ信号）を押すと、通報動作が終了します。室内のシステムの応答確認がないときは、次の通報先へ通報します。（最大100回、繰り返します）

セーフティグループ	通報先を繰り返す
A	通報先1→ 通報先2 → 通報先3 → 通報先4 → 通報先5（通報先5から通報先1へ戻る）
B	通報先1→ 通報先2 → 通報先3 → 通報先4 → 通報先5（通報先5から通報先1へ戻る）

※工事設定により、携帯電話に発信するとき、あらかじめ登録したアクセスコードを自動的に付加して発信することができます。

7. セーフティリモコン

登録された通報先から、リモコン操作を行うことができます。
①セーフティモードのセット／解除
②威嚇状態の解除
③音声モニタおよび音声による威嚇のセット／解除

②セーフティ機能編

セーフティモードを解除する暗証番号を設定する（セーフティモード解除用暗証番号）

多機能電話機、CL620親機

セーフティモードを解除する暗証番号を、セーフティグループごとに登録することができます。

登録のしかた

1 ●を押す

2 ◇を押して[その他]を選択し、●を押す

3 ◇を押して[セーフティ関係]を選択し、●を押す

4 ◇を押して[セーフティグループA]または[セーフティグループB]を選択し、●を押す

5 ◇を押して[セーフティモード解除用暗証番号]を選択し、●を押す

6 暗証番号（4桁）を入力する

- ００００～９９９９を入力します。
- 必ず４桁入力してください。
- お買い上げ時は「１２３４」です。
- 暗証番号は、お買い上げ時から変更することをおすすめします。（いたずらや悪用される場合があります）

7 ◇を押して[はい]を選択し、●を押す

- 「セーフティモード解除用暗証番号」が登録され、手順５へ戻ります。

MEMO

- 手順１～５はメニュー特番９６Ｘ１として、電話機の［／オート］に登録できます。（X：1セーフティグループA、2セーフティグループB）（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
- 選択したセーフティグループがセーフティモード中の場合は、登録／解除することはできません。
- 暗証番号は、管理者または関係者以外に知らせないでください。（いたずらや悪用される場合があります）

変更のしかた

「登録のしかた」と同じ操作をします。

解除のしかた

1 「登録のしかた」の手順１～５と同様の操作をする

2 ［フラッシュ］を押し、●を押す

3 ◇を押して[はい]を選択し、●を押す

- 「セーフティモード解除用暗証番号」を解除し、「登録のしかた」の手順５に戻ります。

通報ガイダンスを切り替える（通報ガイダンス）

多機能電話機、CL620親機

人感センサなどが異常を検知し、威嚇時の通報で通報先が応答した場合の通報ガイダンスをセーフティグループごとに選択することができます。
●通報ガイダンスには４種類のメッセージがあります。
①ガイダンス１・・・「会社からの緊急通報です。＃を押すと音声をモニタすることができます。」
②ガイダンス２・・・「自宅からの緊急通報です。＃を押すと音声をモニタすることができます。」
③ガイダンス３・・・「緊急通報です。＃を押すと音声をモニタすることができます。」
④ガイダンス４・・・「セーフティＸからの緊急通報です。＃を押すと音声をモニタすることができます。」（Ｘ：ＡまたはＢ）

1 ● を押す

2 ◇ を押して[その他]を選択し、● を押す

3 ◇ を押して[セーフティ関係]を選択し、● を押す

4 ◇ を押して[セーフティグループＡ]または[セーフティグループＢ]を選択し、● を押す

5 ◇ を押して[通報ガイダンス設定]を選択し、● を押す

●お買い上げ時は、「通報ガイダンス１（会社から・・）」です。

6 ◇ を押して通報ガイダンスＮｏ.を選択し、● を押す

●選択された通報ガイダンスを試聴したいときは ア1 を押してください。
●試聴した場合 ● を押すと停止します。

7 ＃ を押す

●選択された通報ガイダンスが登録され、手順５に戻ります。

MEMO

●手順１～５はメニュー特番９６Ｘ２として、電話機の ／オート に登録できます。（Ｘ：1 セーフティグループＡ、2 セーフティグループＢ）（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
●選択したセーフティグループがセーフティモード中の場合は、登録することはできません。

通報先電話番号の登録／確認／変更／消去（通報先電話番号）

多機能電話機、CL620親機

人感センサなどが異常を検知したときの通報先電話番号を、セーフティグループごとに最大５ヶ所まで登録することができます。
※通報先電話番号は、お客様の携帯番号や自宅などの緊急時の連絡先を登録します。

登録のしかた

1. ●を押す
2. ◈を押して[その他]を選択し、●を押す
3. ◈を押して[セーフティ関係]を選択し、●を押す
4. ◈を押して[セーフティグループA]または[セーフティグループB]を選択し、●を押す
5. ◈を押して[通報先電話番号]を選択し、●を押す
6. ◈を押して通報先Ｎｏ.を選択し、●を押す
   - 【　】内に通報先の電話番号が表示されます。
   - お買い上げ時は「登録なし」です。
7. ◈を押して[登録]を選択し、●を押す
8. 通報先電話番号を入力し、●を押す
   - 電話番号は最大２４桁まで入力できます。
   - 取扱説明書で「文字、番号の入力のしかた」の「番号の入力のしかた」を参照してください。
   - 選択された通報先電話番号が登録され、手順6に戻ります。

MEMO

- 手順１～5はメニュー特番９６Ｘ３として、手順１～6はメニュー特番９６Ｘ３Ｙとして、手順１～7はメニュー特番９６Ｘ３Ｙ１として電話機の[／オート]に登録できます。（Ｘ：[1]セーフティグループＡ、[2]セーフティグループＢ）（Ｙ：[1]通報先１～[5]通報先５）（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
- 選択したセーフティグループがセーフティモード中の場合は、登録することはできません。
- 手順8でＰ（ポーズ）（待ち時間：お買い上げ時は3秒）は、電話番号の途中に入れないでください。相手につながらないことがあります。

確認のしかた

「登録のしかた」の手順１～６と同じ操作をします。

変更のしかた

「登録のしかた」と同じ操作をします。

消去のしかた

1. 「登録のしかた」の手順１～６と同じ操作をする
2. ◈を押して[消去]を選択し、●を押す
3. ◈を押して[はい]を選択し、●を押す
   - 選択された通報先電話番号が消去され、「登録のしかた」の手順6に戻ります。

MEMO

- 手順１～2はメニュー特番９６Ｘ３Ｙ２として電話機の[／オート]に登録できます。（Ｘ：[1]セーフティグループＡ、[2]セーフティグループＢ）（Ｙ：[1]通報先１～[5]通報先５）（☞ 取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
- 選択したセーフティグループがセーフティモード中の場合は、消去することはできません。

威嚇音を選択する（威嚇音）

多機能電話機、CL620親機

人感センサなどが異常を検知したときの威嚇電話機（多機能電話機、ＣＬ６２０親機、ＣＬ６２０子機、ＷＳ６００電話機）で、鳴動する威嚇音を選択することができます。
●威嚇音には４種類があります。
①威嚇音１・・・固定威嚇音のみ
②威嚇音２・・・固定威嚇音＋「侵入を検知　通報します」
③威嚇音３・・・固定威嚇音＋「緊急通報中」
④威嚇音４・・・固定威嚇音＋「おい、こらドロボー何やってんだー」

1 ● を押す

2 ◇ を押して[その他]を選択し、● を押す

3 ◇ を押して[セーフティ関係]を選択し、● を押す

4 ◇ を押して[威嚇音設定]を選択し、● を押す

5 ◇ を押して威嚇音Ｎｏ.を選択し、● を押す

- 選択された威嚇音を試聴したいときは ア1 を押してください。
- 試聴した場合 ● を押すと停止します。

6 # を押す

- 選択された威嚇音が登録され、手順４に戻ります。

MEMO

- 手順１～４はメニュー特番（Agrea HM700の場合は９６３、ActysⅡの場合は９６２）として、電話機の /オート に登録できます。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
- セーフティモード中の場合は、登録することはできません。

異常を検知するモードになる（セーフティモードセット）

多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機

通常モードから［警戒］を押すと、セーフティモードをセットすることができます。

（例：セーフティモードA）

1 （受話器）

内線 12
１１月　５日(土)
午後　９：００

2 ［警戒A］**を押す**

《セーフティモード設定》
セーフティモードを設定する場合は
［確定］を押してください

- 「セーフティモード設定」画面へ進みます。

3 ●**を押す**

《セーフティモード設定》
60秒後にセーフティモードが設定
されます

- モード設定遅延タイマが起動します。
  →［警戒A］ランプ：赤点滅

4 **モード設定遅延タイマ終了後、セーフティモードがセットされる**

内線 12
１１月　５日（土）午後　９：００
セーフティＡ

- セーフティモードＡに変わります。
  →［警戒A］ランプ：赤点灯

MEMO

- セーフティモードAをセット／解除する場合、必ず［警戒A］（特殊番号60）は電話機の［オート］に登録してください。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
  セーフティモードBをセット／解除する場合、必ず［警戒B］（特殊番号61）は電話機の［オート］に登録してください。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
- 工事設定により、モード設定遅延タイマを変更することができます。（お買い上げ時は60秒です）
- セーフティグループ内ですでにセーフティモードをセットしている場合は、セットすることができません。
- セーフティグループ内で電話機が使用中、または外線が使用中の場合は、セットすることができません。（電話機の画面に「《セーフティモード設定》同一グループ内の電話機または外線が使用中です　しばらく待ってから設定してください」のメッセージが表示されます）
- 外部センサが作動状態（例：マグネットスイッチでは窓、またはドアが開放中）の場合には、セットすることができません。（電話機の画面に「《セーフティモード設定》外部センサが反応しています。外部センサを解除してから設定してください」のメッセージが表示されます。外部センサの解除方法については、外部センサの取扱説明書を参照してください）
- 設定したセーフティグループ内の電話機の画面3行目に設定したモード情報を表示します。このとき、カレンダ・時計表示は標準モードとなり、コンテンツ表示は表示しません。
- セーフティモードセット中は、リモコン操作することも可能です。（☞28ページ）
- セーフティモード中での制限事項は☞12ページをご覧ください。
- Agrea HM700/RegalisⅡの場合、TS-MT0802C送信機からセーフティモードをセットすることができます。
- Agrea HM700の場合、IcGateからセーフティモードをセットすることができます。

異常を検知するモードになる（セーフティモードセット）

IcGate

IcGateから、セーフティモードをセットすることができます。
※Agrea HM700のみです。

（例：セーフティモードA）

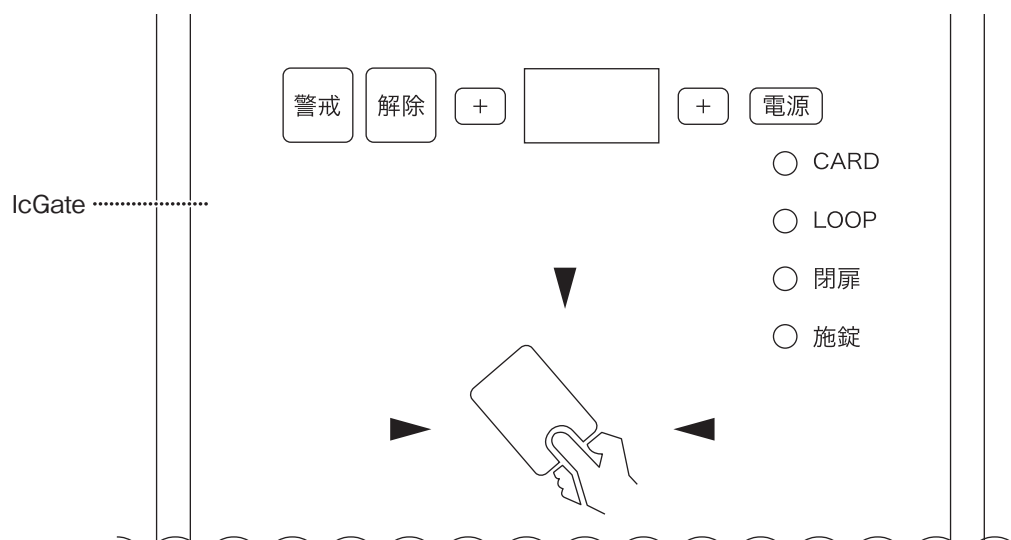
1 IcGateの 警戒 を押す

2 IcGateにカードをかざす

● 警戒開始できるカードは警備資格があるカードのみです。（カードについては、お買上げになった販売店へお問い合わせください）

3 セーフティモードがセットされる

内線 12
１１月　５日（土）午後　９：００
セーフティＡ

● セーフティモードＡに変わります。
→ 警戒A ランプ：赤点灯

MEMO

● 扉が開いていると、IcGateから警戒開始できません。（IcGateの画面には、「HE」を一定時間表示します）そのときは、扉を閉じて再度、手順１～３を行ってください。

セーフティモード中から通常モードに戻る（セーフティモード解除）

多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機

セーフティモードから［警 戒］を押すと、セーフティモードを解除することができます。

セーフティモード解除用暗証番号が登録されている場合

（例：セーフティモードA）

1 （セーフティモード中）

```
                    内線 12
１１月　５日（土）午後　９：００
セーフティＡ
```

→［警戒A］ランプ：赤点灯

2 ［警戒A］を押す

```
《セーフティモード解除》
暗証番号［■　　　］
セーフティモードを解除する場合は
暗証番号を入力してください
```

- 「セーフティモード解除」画面へ進みます。
  →［警戒A］ランプ：赤点滅

3 暗証番号を入力する

```
《セーフティモード解除》
暗証番号［＊＊＊＊］
セーフティモードを解除しました
```

- ４桁入力されると、セーフティモードを解除します。
  →［警戒A］ランプ：消灯

セーフティモード解除用暗証番号が登録されていない場合

（例：セーフティモードA）

1 （セーフティモード中）

```
                    内線 12
１１月　５日（土）午後　９：００
セーフティＡ
```

→［警戒A］ランプ：赤点灯

2 ［警戒A］を押す

```
《セーフティモード解除》

セーフティモードを解除しました
```

- セーフティモードを解除します。
- 表示は５秒経過後に待機状態に戻ります。
  →［警戒A］ランプ：消灯

MEMO

- セーフティモードAをセット／解除する場合、必ず［警戒A］（特殊番号60）は電話機の［オート］に登録してください。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
  セーフティモードBをセット／解除する場合、必ず［警戒B］（特殊番号61）は電話機の［オート］に登録してください。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
- 威嚇中に、セーフティモードを解除した場合は、威嚇状態をキャンセルします。
- セーフティモード解除は、「暗証番号なし」でも解除することができますが、「暗証番号あり」での運用をおすすめします。
- セーフティモード解除は、リモコン操作することも可能です。（☞28ページ）
- センサ検知後は威嚇遅延タイマ起動中に解除してください。
- Agrea HM700/RegalisⅡの場合、TS-MT0802C送信機からセーフティモードを解除することができます。
- Agrea HM700の場合、IcGateからセーフティモードを解除することができます。

セーフティモード中から通常モードに戻る（セーフティモード解除）

IcGate

IcGateから、セーフティモードを解除することができます。
※Agrea HM700のみです。

（例：セーフティモードA）

1 （セーフティモード中）

```
                      内線 12
11月　5日（土）午後　9：00
セーフティA
```

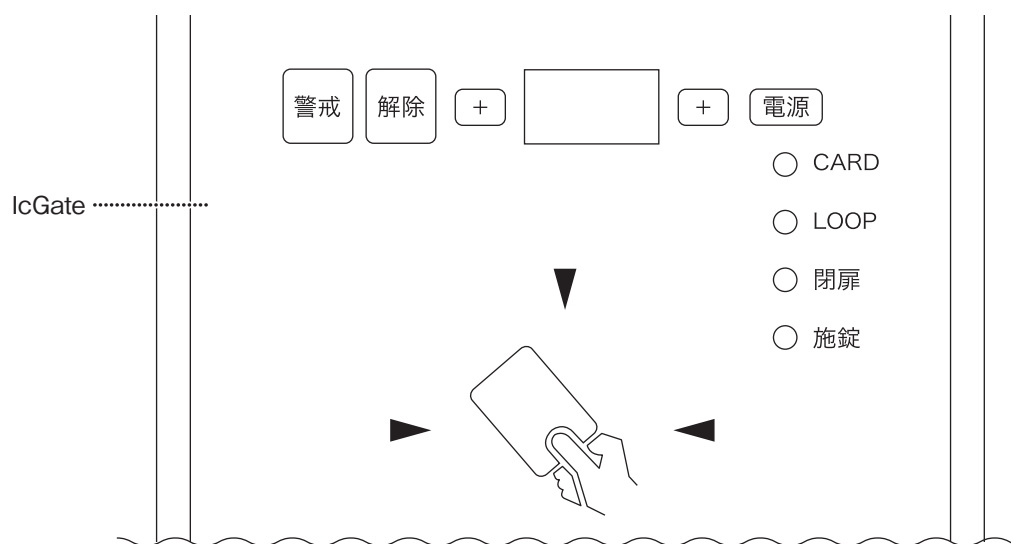
→ 警戒A ランプ：赤点灯

2 IcGateの 解除 を押す

- 解除ができるカードは警備資格があるカードのみです。（カードについては、お買上げになった販売店へお問い合わせください）

3 IcGateにカードをかざす

4 セーフティモードが解除される

```
                      内線 12
1 1月　　5 日（土）
 午後　　9 ： 0 0
```

異常を検知し威嚇や通報先へ知らせる（威嚇および通報）

多機能電話機、CL620親機

セーフティモード中に人感センサなどが異常を検知すると、威嚇電話機または外部スピーカから音声合成音やランプなどによって威嚇することができます。さらに、事前に登録した通報先へ異常を知らせて室内の音声モニタや、通報先からの音声によって威嚇を行うことができます。
・セーフティグループ内の威嚇電話機には、多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機があります。
・セーフティグループ内の音声威嚇電話機には、多機能電話機、CL620親機があります。
・音声威嚇電話機のときは、ハンズフリー通話になります。
・多機能電話機を例とします。

室　内

（例：セーフティモードA）

1 セーフティモード中

内線 12
11月　5日（土）午後　9：00
セーフティA

●表示例：セーフティA
→[警戒A]ランプ：赤点灯

2 異常を検知する

内線 12
11月　5日（土）午後　9：00
セーフティA

●威嚇遅延タイマが起動します。
→[警戒A]ランプ：赤点滅

3 威嚇遅延タイマ満了

《センサ検知》
11月　5日（土）午後　9：01
内線 10：東京太郎
セーフティA

<威嚇電話機>
●威嚇音が鳴動し、威嚇音鳴動タイマを起動します。
●外部スピーカ：威嚇音が鳴動します。
●表示例：内線10　東京太郎がセンサ検知
→[警戒A]ランプ：赤点灯
→[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
→着信ランプ：7色点滅

《センサ検知》
11月　5日（土）午後　9：01
内線 10：東京太郎
セーフティA

<通報先から室内の音声モニタおよび音声威嚇電話機>
●威嚇音が鳴動し、威嚇音鳴動タイマを起動します。
→[警戒A]ランプ：赤点灯
→[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
→着信ランプ：7色点滅

4 通報先へ知らせる(例：外線4)

《センサ検知》
11月　5日（土）午後　9：01
内線 10：東京太郎
セーフティA

<威嚇電話機>
→[警戒A]ランプ：赤点灯
→[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
→着信ランプ：7色点滅

《センサ検知》
11月　5日（土）午後　9：01
内線 10：東京太郎
セーフティA

<通報先から室内の音声モニタおよび音声威嚇電話機>
→[警戒A]ランプ：赤点灯
→[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
→着信ランプ：7色点滅

内線 20
11月　5日（土）午後　9：01

<セーフティグループ外の電話機>
→[外線]4ランプ：点灯

【通報先が応答すると】

《センサ検知》
11月　5日（土）午後　9：01
内線 10：東京太郎
セーフティA

<通報先から室内の音声モニタおよび音声威嚇電話機>
●音声ガイダンスが流れます。
→[警戒A]ランプ：赤点灯
→[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
→着信ランプ：7色点滅

【通報先が[#]（プッシュ信号）を押すと（または警報鳴動タイマ満了のとき）】

《センサ検知》
１１月　５日（土）午後　９：０１
内線 10：東京太郎
セーフティＡ

＜威嚇電話機＞

- 威嚇音を停止します。
- 外部スピーカ：威嚇音停止します。
  - →[警戒A]ランプ：赤点灯
  - →[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
  - →着信ランプ：7色点滅

《センサ検知》
１１月　５日（土）午後　９：０１
内線 10：東京太郎
セーフティＡ

＜通報先から室内の音声モニタおよび音声威嚇電話機＞

- 威嚇音を停止します。
- ハンズフリー通話状態になります。
  - →[警戒A]ランプ：赤点灯
  - →[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
  - →着信ランプ：7色点滅

【通報先が終話すると】

《センサ検知》
１１月　５日（土）午後　９：０１
内線 10：東京太郎
セーフティＡ

＜威嚇電話機＞

- 威嚇音を再度、鳴動します。
- 外部スピーカ：再度威嚇音を鳴動します。
  - →[警戒A]ランプ：赤点灯
  - →[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
  - →着信ランプ：7色点滅

《センサ検知》
１１月　５日（土）午後　９：０１
内線 10：東京太郎
セーフティＡ

＜通報先から室内の音声モニタおよび音声威嚇電話機＞

- 威嚇音を再度、鳴動します。
  - →[警戒A]ランプ：赤点灯
  - →[警戒A]ランプ以外の[外線]ランプ：赤点滅
  - →着信ランプ：7色点滅

内線 20
１１月　５日（土）午後　９：０１

＜セーフティグループ外の電話機＞

- →[外線]4ランプ：消灯

MEMO

- 工事設定により、通報先からの音声威嚇後の終話時に威嚇状態を復旧（継続）するかどうかを変更できます。（お買い上げ時は「継続」です）
- 工事設定により、威嚇警報音の音量を変更できます。（お買い上げ時は、「大」です）
- 工事設定により、威嚇遅延タイマを変更できます。（お買い上げ時は、「60秒」です）
- 工事設定により、威嚇警報鳴動タイマを変更できます。（お買い上げ時は、「20分」です）
- 工事設定により、セーフティグループごとに音声威嚇電話機は、最大3台まで指定できます。そのとき音声威嚇電話機は、1台だけ作動します。
- 通報先からリモコン操作する場合、音声威嚇電話機が1台必要です。（工事設定）
- Agrea HM700/RegalisⅡの場合は、手順3（☞22ページ）で、外部センサが異常を検知すると、（例）「内線10：東京太郎」表示が「外部センサ」の表示となります。
- Agrea HM700/RegalisⅡの場合は、手順3（☞22ページ）で、TS-MT0802C送信機が異常を検知すると、（例）「内線10：東京太郎」表示が（例）「エリア01 CH01：」の表示となります。
- 威嚇状態の解除は、リモコンで操作することも可能です。（☞28ページ）
- 通報先が話中、不応答、または応答後[#]（プッシュ信号）を未受信時には、以下の順序でリトライ発信を行います。（リトライ回数は100回です）
  例）通報先1→通報先2→通報先3→通報先4→通報先5→通報先1…
- セーフティモード中での制限事項は☞12ページをご覧ください。

通報先からの操作

1 本システムが異常を検知する

2 通報先へ電話がかかる

3 通報先へ電話がかかる

●4種類のメッセージがあり、あらかじめ設定されたメッセージが聞こえます。
①ガイダンス1……「会社からの緊急通報です。#を押すと音声モニタすることができます」
②ガイダンス2……「自宅からの緊急通報です。#を押すと音声モニタすることができます」
③ガイダンス3……「緊急通報です。#を押すと音声モニタすることができます」
④ガイダンス4……「セーフティＸからの緊急通報です。#を押すと音声モニタすることができます」（X：AまたはB）

4 [#]（プッシュ信号）を押す

●室内の音声モニタや、室内へ音声による威嚇を行うことができます。
●[#]を押したあと、続けてリモコン操作（☞26ページ）ができます。
●威嚇状態を解除するときのリモコン操作は、次のとおりです。
①セーフティグループAの場合
[*][#][1][5]を押す→[*][#][1][9]または[*][#][9][9]を押す
②セーフティグループBの場合
[*][#][2][5]を押す→[*][#][2][9]または[*][#][9][9]を押す

5 [*][0]（終了）を押す

●終了メッセージ「終了します。」が聞こえ、リモコン操作が完了します。

MEMO

●手順4で、[#]を押さないで終了すると次の通報先へ通報動作を行います。
●手順4でリモコン操作するときは、必ず「威嚇電話機モニタまたは音声威嚇の解除（リモコン番号[*][#][1][5]または[*][#][2][5]）」を行ってください。解除しないとリモコン操作を受け付けません。

威嚇動作を解除する（威嚇解除）

セーフティモード中に、威嚇動作またはセーフティモードを解除するには、次の４種類があります。
①室内の電話機からセーフティモード解除する方法（☞20ページ）
②威嚇動作により通報中にリモコン操作をする方法
・「通報先からの操作」（上記）をご覧ください。
③発信者番号通知を利用してリモコン操作をする方法（☞26ページ）
④サブアドレス通知を利用してリモコン操作をする方法（☞27ページ）

MEMO

●Agrea HM700/RegalisⅡの場合、TS-MT0802C送信機から威嚇動作またはセーフティモードを解除できます。

リモコン操作をする

セーフティ機能の暗証番号を設定する（セーフティリモコン用暗証番号）

多機能電話機、CL620親機

リモコン操作を行うために、必要な暗証番号をセーフティグループごとに登録することができます。

登録のしかた

1 ● を押す

2 ◇ を押して[その他]を選択し、● を押す

3 ◇ を押して[セーフティ関係]を選択し、● を押す

4 ◇ を押して[セーフティグループA]または[セーフティグループB]を選択し、● を押す

5 ◇ を押して[セーフティモードリモコン用暗証番号]を選択し、● を押す

6 暗証番号（4桁）を入力する

- ００００～９９９９を入力します。
- 必ず４桁入力してください。
- お買い上げ時は「登録なし」です。

7 ◇ を押して[はい]を選択し、● を押す

- 「セーフティリモコン用暗証番号」が登録され、手順５へ戻ります。

MEMO

- 手順１～５はメニュー特番９６Ｘ４として、電話機の［／オート］に登録できます。（Ｘ：［1］セーフティグループＡ、［2］セーフティグループＢ）（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）
- 選択したセーフティグループがセーフティモード中の場合は、登録／解除することはできません。
- 暗証番号は、管理者または関係者以外に知らせないでください。（いたずらや悪用される場合があります）

変更のしかた

「登録のしかた」と同じ操作をします。

解除のしかた

1 「登録のしかた」の手順１～５と同様の操作をする

2 ［フラッシュ］を押し、● を押す

3 ◇ を押して[はい]を選択し、● を押す

- 「セーフティリモコン用暗証番号」を解除し、「登録のしかた」の手順５に戻ります。

②セーフティ機能編

発信者番号通知を利用してリモコン操作をする（ダイレクトリモコン）

工事設定により、発信者番号通知を利用して、通報先番号に登録されている番号と通知された番号が一致すると、リモコン操作ができます。

1 通報先から電話機をかける

- プッシュ信号送出と発信者番号通知ができる外出先の電話機から、工事設定した本システムのアナログ回線またはデジタル回線へ電話をかけます。

2 自動応答する

- 受付メッセージ「リモコンを開始します。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。

3 操作するリモコン番号を押す

- メッセージ（☞28ページ）が聞こえます。
- 操作したいリモコン番号は「リモコン操作一覧」をご覧ください。（☞28ページ）
- リモコン番号以外を押した場合には、エラーメッセージ「番号が違います。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。再度正しいリモコン番号を入力してください。

4 ＊ 0（終了）を押す

- 終了メッセージ「終了します。」が聞こえ、リモコン操作が完了します。

MEMO

- 通報先にサブアドレスが入力されている場合、ダイレクトリモコンが利用できません。
- 通報先に登録された電話番号からだけ利用できます。
- 暗証番号の登録は必要ありません。
- セーフティの通報先電話番号から発信者番号を通知して、工事設定した本システムのアナログ回線またはデジタル回線へ電話をかけると、セーフティモードのセット状態または解除状態にかかわらずリモコン状態に入ります。
- セーフティの通報先電話から、工事設定した本システムのアナログ回線またはデジタル回線へリモコン以外の用事で電話をかけるときは、電話番号の前に「１８４」をダイヤルします。（発信者番号を通知不可にして電話をかけます）
- 受付メッセージ「リモコンを開始します。リモコン番号を入力してください。」が聞こえてから約２０秒以内にリモコン番号を押さないと、自動的に電話が切れます。
- 携帯電話からリモコン操作する場合は、携帯電話の設定を「発信者番号通知あり」にしてください。

サブアドレス通知を利用してリモコン操作をする（サブアドレスリモコン）

デジタル回線の基本サービスであるサブアドレス通知を利用して（☞「サブアドレス通知」）、リモコン操作ができます。
このサブアドレスを付加すれば、システムのどのデジタル回線にかけてもリモコン操作が可能です。

1 サブアドレス(セーフィテグループA：95またはセーフティグループB：96)を付加して電話をかける

- プッシュ信号送出とサブアドレスが通知できる電話機から、工事設定した本システムのデジタル回線へ電話をかけます。

2 自動応答する

- 受付メッセージ「リモコンを開始します。暗証番号番号を入力してください。」が聞こえます。
- デジタル公衆電話機からかける場合は、「電話番号→サブアドレスボタン→95または96→スタートボタン」の順にダイヤルします。

3 セーフティリモコン用暗証番号を入力する（☞23ページ）

- 受付メッセージ「リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。
- 自動応答後、２０秒以内に暗証番号の１桁目を押し、続けて残り３桁を押します。
- 暗証番号が間違っていると、エラーメッセージ「暗証番号が違います。暗証番号を入力してください。」が聞こえます。再度正しい暗証番号を押してください。

4 操作するリモコン番号を押す

- メッセージ（☞28ページ）が聞こえます。
- 操作したいリモコン番号は「リモコン操作一覧」をご覧ください。（☞28ページ）
- リモコン番号以外を押した場合には、エラーメッセージ「番号が違います。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。再度正しいリモコン番号を入力してください。

5 ＊0（終了）を押す

- 終了メッセージ「終了します。」が聞こえ、リモコン操作が完了します。

MEMO

- 暗証番号は３回まで受け付けます。それ以上間違えると自動的に電話を切ります。
- サブアドレス発信ができる電話機からだけ利用できます。
- サブアドレス発信ができる電話機は、デジタル公衆電話機、PHS、デジタル回線に接続された電話機だけです。携帯電話は、サブアドレス通知ができません。
- リモコン操作で、ダイヤルしてから約２０秒以上経過すると自動的に電話が切れます。

リモコン操作一覧

機能項目	リモコン番号	動作内容
セーフティモードAの解除※1	*#10	セーフティグループAのセーフティモード解除
セーフティモードAのセット※2	*#11	セーフティグループAのセーフティモードセット
セーフティモードAの威嚇解除※3	*#19	セーフティグループA威嚇状態を解除
セーフティモードAの威嚇電話機モニタまたは音声威嚇のセット※4	*#14	セーフティグループAの室内音声のモニタまたは音声による威嚇のセット
セーフティモードAの威嚇電話機モニタまたは音声威嚇の解除※5	*#15	セーフティグループAの室内音声のモニタまたは音声による威嚇の解除
セーフティモードBの解除※1	*#20	セーフティグループBのセーフティモード解除
セーフティモードBのセット※2	*#21	セーフティグループBのセーフティモードセット
セーフティモードBの威嚇解除※3	*#29	セーフティグループB威嚇状態を解除
セーフティモードBの威嚇電話機モニタまたは音声威嚇のセット※4	*#24	セーフティグループBの室内音声のモニタまたは音声による威嚇のセット
セーフティモードBの威嚇電話機モニタまたは音声威嚇の解除※5	*#25	セーフティグループBの室内音声のモニタまたは音声による威嚇の解除
セーフティグループA・Bの威嚇解除※6	*#99	セーフティグループAとBの両グループの威嚇状態を解除
リモコン終了※7	*0	リモコン操作終了（*0を押さないで受話器を置くと、自動的に切れます）

※1：メッセージ「セーフティXを解除しました。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。（X：AまたはB）
※2：メッセージ「セーフティXをセットしました。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。（X：AまたはB）
※3：メッセージ「セーフティXの威嚇を解除しました。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。（X：AまたはB）
※4：メッセージ「音声威嚇をどうぞ。」が聞こえます。
※5：メッセージ「音声威嚇を終了しました。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。
※6：メッセージ「すべての威嚇を解除しました。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。
※7：メッセージ「終了します。」が聞こえます。

MEMO

- リモコン操作中の制限事項について
  セーフティモードA（またはセーフティモードB）でリモコン操作した場合、セーフティモードB（またはセーフティモードA）の威嚇電話機モニタまたは音声威嚇ができません。
- 威嚇電話機モニタまたは音声威嚇セット中、「威嚇電話機モニタまたは音声威嚇の解除」と「リモコン終了」以外はできません。
- リモコン番号以外の番号を押すと、エラーメッセージ「番号が違います。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。約２０秒以内に正しい番号を押してください。
- 操作できないリモコン番号を押すと、エラーメッセージ「エラーです。リモコン番号を入力してください。」が聞こえます。約２０秒以内に正しい番号を押してください。
- リモコン操作を間違えたとき、**(訂正）を押してから、正しいリモコン番号を押してください。
- Agrea HM700の場合、IcGateが警備モード動作時、リモコン操作によるセーフティモードの解除はできません。

外部センサに名前を登録する（外部センサ名前登録）

多機能電話機、CL620親機

※Agrea HM700のみです。

登録のしかた

1 ● を押す

2 ◇ を押して[その他]を選択し、● を押す

3 ◇ を押して[システム]を選択し、● を押す

4 ◇ を押して[ドアホン／外部センサ]を選択し、●を押す

5 ◇ を押して[外部センサ]を選択し、● を押す

6 ◇ を押して[名前登録]を選択し、● を押す

7 名前を入力し、● を押す

- 名前は最大10桁まで入力できます。（☞取扱説明書の「文字、番号の入力のしかた」を参照してください）
- 外部センサの名前が登録され、手順5に戻ります。

MEMO

- 手順１～４は、メニュー特番917、手順１～５は、メニュー特番9170、手順１～６は、メニュー特番91701として電話機の[／オート]に登録できます。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）

消去のしかた

1 登録のしかたの手順1～5の操作をする

2 ◇ を押して[名前消去]を選択し、● を押す

3 ◇ を押して[はい]を選択し、● を押す

- 外部センサの名前が消去され、「登録のしかた」の手順５に戻ります。

MEMO

- 手順１～３は、メニュー特番91702として電話機の[／オート]に登録できます。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（メニュー特番）」の「●番号入力による方法」を参照してください）

いらっしゃいませンサ機能について

※本機能はActysⅡでは、ご利用になれません。

本システムは、人感センサ付き多機能電話「TD615、TD625電話機」に搭載されている「人感センサ」（※１）を使用して、いらっしゃいませンサ機能をご利用することができます。いらっしゃいませンサモード中にTD615、TD625電話機の人感センサが感知すると、あらかじめ指定された電話機（いらっしゃいませンサグループ電話機）から音声合成音（※2）を鳴らします。いらっしゃいませンサ機能は最大２グループ（A、B）までご利用できます。
※１：外部センサを接続することも可能です。（Agrea HM700のみ）
※２：お買い上げ時は音声合成音です。工事設定により音声合成音を音に変えることができます。

来客を検知するモードになる（いらっしゃいませンサモードセット）

多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機

通常モードから［いらっしゃいませンサ］を押すと、いらっしゃいませンサモードをセットすることができます。

（例：いらっしゃいませンサモードA）

1

```
              内線 12
１ １月     ５ 日(土)
  午後     ９ ： ００
```

2 ［いらっしゃいませンサA］を押す

```
いらっしゃいませンサAセット
```

●いらっしゃいませンサモードAに変わります。
→［いらっしゃいませンサA］ランプ：赤点灯

3 約５秒経過後

```
              内線 12
11月  5日（土）午後  9：00
いらっしゃいませンサA
```

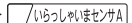
MEMO

- いらっしゃいませンサモードAをセット／解除する場合、必ず［いらっしゃいませンサA］（特殊番号80、Agrea HM700の場合、特殊番号50）を電話機の［オート］に登録してください。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」を参照してください）
  いらっしゃいませンサモードBをセット／解除する場合、必ず［いらっしゃいませンサB］（特殊番号81、Agrea HM700の場合、特殊番号51）を電話機の［オート］に登録してください。（☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」を参照してください）
- 設定したいらっしゃいませンサグループ内の電話機の画面3行目に設定したモード情報を表示します。このとき、カレンダ・時計表示は標準モードとなり、コンテンツ表示は表示しません。

いらっしゃいまセンサモード中から通常モードに戻る（いらっしゃいまセンサモード解除）

多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機

通常モードから［いらっしゃいまセンサ］を押すと、いらっしゃいまセンサモードを解除することができます。

（例：いらっしゃいまセンサモードA）

1 （いらっしゃいまセンサモード中）

内線 12
11月　5日（土）午後　9：00
いらっしゃいまセンサA

→［いらっしゃいまセンサA］ランプ：赤点灯

2 ［いらっしゃいまセンサA］を押す

いらっしゃいまセンサA解除

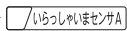
- いらっしゃいまセンサモードを解除します。
- 表示は５秒経過後に待機状態に戻ります。
  →［いらっしゃいまセンサA］ランプ：消灯

MEMO

- いらっしゃいまセンサモードAをセット／解除する場合、必ず［いらっしゃいまセンサA］（特殊番号80、Agrea HM700の場合、特殊番号50）を電話機の［オート］に登録してください。
  （☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」を参照してください）
  いらっしゃいまセンサモードBをセット／解除する場合、必ず［いらっしゃいまセンサB］（特殊番号81、Agrea HM700の場合、特殊番号51）を電話機の［オート］に登録してください。
  （☞取扱説明書で「オートダイヤルにいろいろな機能を登録する（オートダイヤル）」にある「登録のしかた（特殊番号）」を参照してください）

来客を検知し、音声合成音を鳴らして知らせる（いらっしゃいませンサ動作）

多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機

いらっしゃいませンサモード中に人感センサが人を検知すると、あらかじめ指定された電話機（いらっしゃいませンサグループ電話機）から音声合成音（※１）を鳴らします。
※１：お買い上げ時は音声合成音です。工事設定により音声合成音を音に変えることが出来ます。
・いらっしゃいませンサグループ電話機には、多機能電話機、CL620親機、CL620子機、WS600電話機があります

（例：いらっしゃいませンサモードA）

1 （いらっしゃいませンサモード中）

内線 12
１１月　５日（土）午後　９：００
いらっしゃいませンサA

→ [いらっしゃいませンサA] ランプ：赤点灯

2 来客を検知する

いらっしゃいませ

《いらっしゃいませンサグループ電話機》
- 音声合成音（お買い上げ時）が鳴ります。
  → [いらっしゃいませンサA] ランプ：赤点滅

3 約５秒経過後

内線 12
１１月　５日（土）午後　９：００
いらっしゃいませンサA

→ [いらっしゃいませンサA] ランプ：赤点灯